

大東文化學院教授

安井小太郎先生述

經學門徑全

大東文化學院研究部刊

216.3-2

大東文化學院教授
安井小太郎先生述

經學門徑全

大東文化學院研究部刊

序

支那の古典研究に従事するものは、誰しも其の一半の勢力を必讀書の選擇に費すを常とする。眞贋の判定は先づ選擇の第一難事である。一部の古文尙書を審定するのに、閻若璩の頭腦と精力とを以てして、尙且二十餘年の歲月を費したではないか。劉歆や王肅は夙に名を歌はれて居る丈に却て始末は善いかも知れぬが、此等の外に應詔利を求めんとするもの、自ら恥ぢ自ら憚つて其の名を秘するもの、古來僞作者の數は決して少くは無い。一たび眞贋

を分てば古書其の半ばを去り、一たび瑕瑜を分てば列朝の書其の十の八九を去る」と云つてゐるのは、決して誇張の言葉ではない。流派の甄別も當然一考せねばならぬ重要事だ。師法と家法とは漢代既に嚴守せられた牢乎たる學界の畛域であつた。陸氏の釋文（注解傳述人の部）や洪氏の通經表などは、這般の點に於て能く後人を教へては居るが、經學史上の事實としては、魏晉以後の鄭王二流、清朝の漢宋二派など、幾多の分流もあることだから、其の間の消息に通じて、然る後讀む可きの書を採擇するでなければ、たとひ萬卷を涉獵しても、得る所は恐らくは亡羊の歎に終るであらう。必讀書

選擇の問題は獨り此の眞贋の判定と流派の甄別とに盡くるものではない。訓詁として何れが精しいか精しくないか。校勘として何れが確であるか確でないか。乃至購求するとして何れが便利であるか便利でないか。凡て此等は皆當面の即決問題として讀書子に提供せられて居るものである。昔から漢書藝文志が「學問の眉目著述の門戸」として推獎せられて居るのは當然の事ではあるが、今日の支那古典研究者は漢志以外更に後代までの書を包含した新しい解説の門徑書を要求するのである。但此の事は至難事である。「群經に通ぜざれば一經を治むる能はず、」況んや群經をや況んや

經史子集をやである。世上二三此の種の著述は無いではないが、常に吾人の心を満たすに足らぬのは、作者の多くが解題拔萃の解題を蒐録して、眞に書中の書を玩誦會得して居らぬからではあるまいか。此の際我が大東文化學院志道會研究部は、現今經學界の耆宿安井先生に御願して此の經學門徑を公にする事を得た。收むる所は十二部二百九十一種、紙數の關係もあることだから、勿論説明は概畧に止つたが、眞に讀み眞に解して然る後其の要を至簡至切に摘録せられたものであるから、將來の讀書子は、此に由つて正に絶好の良指針を得るであらう。學界の要望の頓に滿されたこと

を世の讀書子と共に喜び、茲に先生に對して厚く拜謝の意を表する。尙此の書の編纂に就て、研究部員全部、就中丸田渡部二君の多大な努力を、會員と共に多謝したいと思ふ。

昭和六年三月

志道會研究部長 諸 橋 轍 次

例言

一、本編は大東文化學院學生の請に因り、安井先生の筆述せられたるものなり。編纂體例の主旨左の如し。

二、是編、經學の門徑として必由すべき書を擇び、之が略解を爲し研學の便に供せらる。十三經を經とし、各經の參考書を緯とせられたり。

三、撰擇の標準は、普通一般にして學者の必讀すべき者に止められたり。收載中の書に因りて、それ以上の必讀書は自然に知らるべきを以てなり。

四、叢刻本を多く取られたるは、其の獲易きを以てなり。故に單行本ある者も、叢刻中に收むる書は、叢刻書の名を標記せり。

五、經書の注釋に古注新注の兩派あり。二派各所長ありて偏廢すべからず。故に本編

も二派の粹なる者を取られたり。

六、清朝考據の學は康熙嘉慶間を極盛時とす。以後は支流餘裔の觀あり。正續經解中の書を多く取られたるは是を以てなり。

七、大學中庸二書は、古注家は禮記中に注し、新注家は四書中に注する者多し。故に大學中庸の名を標して注釋せる書は少數に止る。此れ本編に學庸の名ある書多からざる所以なり。

八、先生忙劇、生等兩名編纂の任に膺りしも、菲才にして其任に堪ふる能はず。加ふるに諸子の上梓を望むこと頗る急、書目排列の順序を誤り、又收載書に掛漏の憾なきを期せず。是皆生等の罪なり。深咎するなきを得ば幸なり。

昭和六年二月

研究部員

丸田潤二郎

鞠躬識

渡部信治郎

經學門徑書目

周易部

周易正義	一
周易集解	二
周易集注	三
古周易訂詁	四
周易集注(通稱來注)	四
御纂周易折中	五
御纂周易述義	六

仲氏易	六
易通釋	七
周易稗疏	七
周易述	八
易漢學	八
讀易漢學私記	八
周易述補	九
易經異文釋	九
周易舊疏考證	九

周易翼傳·····	九
易經古義·····	一〇
易圖明辨·····	一〇
京氏易傳·····	一〇
易學象數論·····	一一
易圖條辨·····	一二
易學啓蒙諺解大成·····	一二
繫辭答問·····	一三
周易釋故·····	一三
周易虞氏義·····	一四
周易虞氏消息·····	一四
周易鄭氏義·····	一四

尙書部

周易荀氏九家箋·····	一四
易義別錄·····	一四
虞氏易義·····	一四
虞氏易言·····	一四
虞氏易侯·····	一五
虞氏易消息圖說·····	一五
尙書正義·····	一六
書集傳·····	一七
書傳輯錄纂注·····	一七
欽定書經傳說彙纂·····	一八

尙書補疏	一九
尙書古文疏證	一九
尙書集注音疏	一九
尙書後案	一九
尙書今古文注疏	二〇
古文尙書撰異	二〇
古文尙書攷	二〇
尙書今古文集解	二二
今文尙書經說攷	二二
尙書孔傳參正	二三
書古微	二三
書說摘要	二三

尙書歐陽夏侯遺說攷	二三
尙書大傳輯校	二三
尙書紀聞	二四
大誓答問	二四
尙書釋天	二四
尙書地理今釋	二五
禹貢錐指	二五
禹貢錐指正誤	二六
胡氏禹貢圖考正	二六
詩部	
毛詩正義	二七

毛詩本義	二七	詩古微	三三
呂氏家塾讀詩記	二八	毛詩輯疏	三三
詩集傳	六八	毛詩會箋	三三
詩緝	元九	毛鄭詩考正	三三
欽定詩經傳說彙纂	元九	詩經小學	三四
欽定詩義折中	三〇	三家詩遺說考	三四
毛詩稽古編	三〇	三家詩拾遺	三四
詩經世本古義	三一	三家詩異文疏證、補遺	三四
毛詩補疏	三一	校正毛詩草木鳥獸蟲魚疏	三五
毛詩傳箋通釋	三一	陸氏草木鳥獸蟲魚圖解	三六
毛詩後箋	三二	毛詩品物圖攷	三六
毛詩補傳	三三	詩地理考	三六

毛詩地理釋……………三七
詩地理徵……………三七

考工記圖……………四二
車制圖考……………四二

周禮部

周禮注疏……………六

考工記圖解……………四二
周禮注疏小箋……………四三
周官記……………四三

周禮訂義……………三九

周禮義疏……………三九

儀禮部

周禮正義……………三九

儀禮注疏……………四一

周禮軍賦說……………四〇

儀禮集說……………四六

周官祿田考……………四〇

儀禮識誤……………四六

周禮疑義舉要……………四一

儀禮義疏……………四六

周官辨……………四一

儀禮古今文疏義……………四七

儀禮私箋.....	四七	禮記集說(陳澧著).....	五三
儀禮正義.....	四七	禮記纂言.....	五三
儀禮圖(楊復著).....	四八	禮記義疏.....	五三
儀禮釋宮.....	四八	禮記補疏.....	五三
羣經宮室圖.....	四八	禮運注.....	五四
儀禮圖(張惠言著).....	四九	王制箋.....	五四
儀禮釋宮圖解.....	四九	三禮圖.....	五四
禮記部		讀禮肆考.....	五五
禮記注疏.....	五〇	五禮通考.....	五五
儀禮經傳通解.....	五一	讀禮通考.....	五五
禮記集說(衛湜著).....	五三	禮書綱目.....	五六
		禮經釋例.....	五六

春秋部

春秋左傳注疏.....	五	春秋公羊通義.....	六一
春秋傳說彙纂.....	五	公羊何氏釋例.....	六一
春秋釋例.....	五	公羊義疏.....	六一
左.....	五	春秋穀梁傳注疏.....	六二
春秋左傳補疏.....	五	穀梁補注.....	六三
春秋左傳補注.....	五	穀梁大義述.....	六三
讀左筆記.....	五	春秋胡傳.....	六三
左傳輯釋.....	六	春秋集注.....	六四
左氏會箋.....	六	春秋異文箋.....	六四
春秋公羊傳注疏.....	六	春秋諸傳會通.....	六四
		春秋集傳.....	六五
		春秋闡微纂類義統.....	六五

春秋集傳纂例……………	室	東萊の左氏博議……………	充
春秋集傳辨僞……………	室	左傳經世鈔……………	充
春秋微旨……………	室	春秋大事表……………	充
春秋師說……………	突		
春秋集傳……………	突		
左傳賈服注輯述……………	宅	論語注疏……………	七一
左傳杜解補正……………	宅	論語義疏(根本本)……………	七一
左傳舊疏考正……………	宅	論語義疏(懷德堂本)……………	七二
春秋地理考實……………	穴	論語集注……………	七三
春秋地名辨異……………	穴	論語稽求篇……………	七三
左傳地名補注……………	穴	論語補疏……………	七三
春秋經傳朔閏表……………	充	論語正義……………	七三

論語部